

様式：【紙面協議のまとめ】

分科会名	第3分科会
研究主題	生徒と向き合う時間確保のための働き方改革と教頭の役割 ～学校業務のシステム構築と学校・家庭・地域の協力体制の充実を通して～
提言者	所属：鹿島嬉野藤津地区教頭会 学校名：嬉野市立嬉野中学校 氏名：福田 浩之
紙面協議のまとめ	<p>【発表内容についての所感】</p> <ul style="list-style-type: none">・学校教育は、児童生徒と教員の人間的なふれあいを通して行われるもので、教員の心身が健康であることが重要である。しかし、時間外労働については小中学校ともに深刻な状況である。教員の心身が疲れ切った状況では、質の高い教育の推進や児童生徒と向き合う時間の確保は困難である。この様な状況を打破するためにも働き方改革を推進していくことが重要である。・学校本来の教育を行うために「児童生徒と向き合う時間」の確保が必要だという理念は、十分学校現場でも理解している。「わかってはいるが、なかなか難しい」という状況から、各学校で、まずはやれることを考え、どう変えるか、どう変わるか、学校の状況に応じた働き方改革を進めていく必要がある。 <p>【教職員の意識の改革】</p> <p>働き方改革を進めていく上で、何より「教職員の意識の改革」が重要である。まずはその意識改革として、日常の習慣化を図るために出勤簿、タイムレコーダー、年休簿、出張伺いの動線をうまく活用するとともに、定時退勤日には音楽を流すなど、教職員間の意識の醸成のため、よくルーティン化されている。</p> <p>【ICT 機器の活用】</p> <p>電子掲示板の活用、校務分掌事務等のデジタル化・フォルダの一元管理など、ICT 機器を活用することで業務改善につながっており、積極的に活用していく必要がある。</p> <p>【保護者、地域との連携】</p> <p>県PTA連合会では、「教職員の働き方改革」について時間外勤務の縮小をあげられている。朝の交通安全指導、地区懇談会等、時間外の活動について、保護者や地域の理解を促していく必要がある。</p> <p>【教頭として】</p> <p>私たちはコロナ禍でも実感したように、「当たり前」や「例年通り」という価値観から、業務の精選・見直しに対する意識が明確に変わった。「これまでの慣例等は変えられる」「業務の効率が上がる」ことに教頭が誰よりも敏感になることが、工夫やアイデアを生む第一歩である。</p>
研究部長より	<p>学校教育における業務改善は、どの学校に於いても早急に取り組むべき大きな課題である。教職員の過労死の問題やメンタルヘルス、若者の教職志望者の減少等は、今後の子どもたちの教育、私たち教職員の質的向上を図るうえで教職員一人一人が自らの問題として受け止めることが何より重要である。</p> <p>今回、当地区で働き方改革と教頭の役割について実践を行ったが、各学校独自の取り組みを参考に、地区内の取り組みを共有できたことは有益なものとなった。まずは各学校の実情に応じ、できるところから実践していくこと。教頭の役割として、常に課題意識を持ち、改善を進めていくことが、我々教頭に求められる資質であると感じた。</p> <p>(太良町立多良中学校 藤田 浩巳)</p>